



▲昭和44年当時の津田支所（旧津田町役場）。



▲現在の津田支所（津田北町2丁目）。今年で開設40年を迎えました。



◀津田町役場が建っていた場所（津田元町3丁目）。現在は保育園になっています。

町の合併も見届けた東部の拠点

津田支所

昭和30年10月15日、枚方市は東側に隣接する津田町と合併し、現在の市域になりました。

津田元町にあった津田町役場は、大正4年に竣工したモダンな木造の洋風建築で、もとは警察署でしたが、昭和18年から町役場として使われるようになりました。「中に入ると円形のカウンターがあつてね。とてもオシャレしていましたよ」と話すのは津田元町で古くから続く呉服店を営む西村利彦さん（78歳）。「屋根の天窓みたいなのところにサイレンがあつて、戦時中はそこから空襲警報が鳴りました」と振り返ります。役場の前の通りは飲食店や本屋、薬局など30軒以上の店が立ち並ぶ商店街で、多くの買い物客でにぎわっていました。「役場に用事のお客さんが、帰りによく私の店にも立ち寄ってくれてね。この辺りは何でもさろうから便利だと話していましたよ」。秋になると、近くの山へ松茸狩りに訪れる観光客も。「遠方から通りの料理屋に泊まりがけで来る人もいたんですよ」。

合併とともに支所となった津田町役場は、昭和46年、老朽化に伴い半世紀を超える現役生活に幕を下ろしました。鉄筋コンクリート造りの新しい津田支所は、同じ年に国道307号線沿いに開設。平成2年に併設された津田図書館・公民館（現生涯学習市民センター）とともに、東部の拠点として市民生活に欠かせない場となっています。

（平成23年9月号）